

最愛の恩師、中塘教授へ

中塘ゼミ 2015 年度卒業生 松 永 紗 季

恩師と言われて一番に思い出すのは、中塘教授です。そんな教授の記念誌への寄稿をお声かけ頂き、大変光栄に思います。

ついにこの日がきてしまいました。数年前に、次の代でゼミ生を取らなくなることをお聞きし、覚悟していたつもりでしたが、やはり心に穴が開いた様な気持ちです。中塘先生には、体力測定助手や学会発表など様々な機会を頂きました。ゼミに入る前から大変お世話になりましたので、私の学生生活の大半を先生の元で過ごしたことになります。その後社会人になってからも度々研究室にお邪魔させて頂きました。先生のおられる空間はとても穏やかで、先生のダジャレのお蔭で温かく、いつでも快く迎え入れて下さる空気感がありました。先生がいて下さると思うだけで、不思議と心が落ち着くのです。

私達の代は、3 回生の頃から卒業論文に向けて取り組みました。毎回のゼミ発表では、統計処理の勉強など大変内容の濃いもので、音をあげそうになることもありました。ですが先生の口癖は「社会人になっても役立つから。」でした。勉強面だけでなく、人としてのマナーも教えて頂き、今働いてみて、先生の仰っていた意味がよく分かるようになりました。例えば、人に何かをしてもらったら、相手が一番喜ぶ方法で、すぐ御礼をすること。人のことは絶対に悪く言わないこと。相手の良いところを見つけること。知的好奇心を失わないこと。様々なジャンルの本を読むこと。先生は私達に「～しなさい」とは仰いみせんでしたが、先生の背中から私達はしっかりと学び取ってきたつもりです。

私達の代のゼミ生は過去最少の3人で、本当の家族のようでした。よくゼミ室でお昼ご飯食べましたね、誕生日のお祝いもしましたね、日本庭園で優雅な時間を過ごしましたね、家族の話や身の上話もしましたね、就職の相談に乗って頂いたり、就職が決まった時には一番喜んで下さいました。卒業してからも、私達のことを気にかけて下さり、私達もオープンキャンパスの際には先生の元に駆け付けたり（名目上はお手伝いでしたが、皆ただ先生にお会いしたかっただけでした。）、ふとお声が聴きたくなくてお電話をしたりもしました。



2014 年 8 月 向さんお誕生日



2015 年 1 月 先生へカップのプレゼント

ゼミ採用の際、生意気にも私が「人数が少なくても、本当に先生の元で学びたい人だけに来てほしい」と言うと、先生は冗談めかして、「松永さんはそう言うけれど、中塘ゼミはやめといた方がいいよー」とよく仰っていました。確かに人数は少なかったかもしれませんが、3人だったからこそ成しえたことがあり、3人だったからこそ、こんなにも忘れがたい時間になったとも思うのです。

そして、卒業式の際に下さった「たった3人だったけど、最高のゼミ生でした」というお言葉は絶対に

忘れません。私達にとって中塘先生は、これからも最高の先生であり、才徳の人生の先輩であり、最愛の家族です。先生のお呼びでしたら、いつでも、どこへでもすぐに駆けつけます。関学で出会えたこと、先生のゼミに入れたこと、心から嬉しく思います。本当にありがとうございました。



2015年3月 卒業式